

# 都市再生整備計画(第3回変更)

ちくらえきしゅうへんちく  
千倉駅周辺地区

ちば みなみぼうそうし きゅうちくらまち  
千葉県 南房総市(旧千倉町)

平成22年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	千葉県	市町村名	みなみ総市(旧千倉町)	地区名	ちくらえき しゅうへんちく 千倉駅周辺地区	面積	225 ha
計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度				

**目標**  
 大目標: 駅および周辺道路の環境改善により、住民や観光客に安らぎをもたらす「ゆったりすこやか」型観光の拠点創出  
 目標1: 観光案内所や多目的スペースを有した魅力ある駅を整備することにより、観光客の増加を図る。  
 目標2: 無秩序化された駅前広場を整備することにより、交通の利便性・安全性の向上を図る。  
 目標3: ビクトグラム(図記号)を利用した公共案内標識の整備することにより、住民や観光客に親しみやすく分かりやすい情報を提供する。

**目標設定の根拠**  
 まちづくりの経緯及び現況  
 南房総市(旧千倉町)は、房総半島の南端に位置し、温暖な気候、豊かで風光明媚な海岸線、豊富な海産物、季節を彩る花など、多くの自然に恵まれ、古くから保養地、海浜リゾート地として知られてきたが、交通の便が悪く「近くて遠い地域」というイメージがあった。  
 しかし、平成9年度の東京湾アクアライン開通、東関東自動車道館山道(館山自動車道)の全線開通などにより交通の利便性が高まり、一時は観光客が増加したが、足早に南房総を訪れ、当市を駆け抜けていく「日帰り観光」となり、宿泊を伴う観光客が減少していった。このような現状を打開するべく新たな観光振興の方策が模索されている。  
 一方、近年では、これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄といったあり方が行き詰る中で、市民農園や花摘みといったような体験型観光やブルーーツーリズム・グリーンツーリズムが脚光を浴びるようになった。また、鉄道を利用した観光のあり方も、一時の自家用車利用ばかりの旅行のスタイルだけではなく、自然や安らぎを求め、鉄道を利用して訪れる方も多くなっているようである。  
 市のかねてからの懸案事項であるJR千倉駅舎は、大正時代に建設されたもので老朽化が著しい。そのため、「市の玄関」とも言える千倉駅を整備し、鉄道を利用した観光客にとっての2次交通(バス・タクシー・レンタサイクル等)に対するアプローチを演出してゆくことにより、「ゆったりすこやか」型観光につなげたい。  
 市では、観光客に、より多くの時間を地区内で過ごしてもらい、花摘みや遊歩道を利用したウォーキング、また、ゆっくりと新鮮な海の幸などを味わってもらおうような「ゆったりすこやか」型観光を目指し、様々な取組みを行っている。  
 その取組みの1つに「サイン計画」というものがある。これは、市を訪れた観光客や地域に住む住民にとって分かりやすく、またオリジナリティのある公共案内標識を整備しようとするものである。市全体の観光マップを、観光の拠点となる千倉駅等に設置し、観光の楽しさ、期待感を演出するようなPRをしていきたい。  
 2つ目の取組みに、全国に15大会ある日本ウォーキング協会公式大会の1つである「南房総フラワーマーチ」を毎年開催している。全国から約5000人のウォーカーが訪れるこの大会は、多くの参加者に親しまれるとともに、地域住民が大会スタッフとしてボランティア参加するなど、地域の風物詩となっている。しかし、メイン会場となる市立千倉中学校付近の道路は狭隘で、ウォーカーと自動車が接触しそうな場面もあることから改善を求められている。  
 3つ目の取組みに、日本で唯一、料理の神様を祀る高家(たかべ)神社をはじめとする地区内各地に点在する観光地をゆったりと訪れてもらう方策として、レンタサイクルを活用した観光に対する取組みを平成11年度から行っているが、まだまだPRが不足している。  
 なお、JR千倉駅改築については、住民からも早急な整備を図るよう、平成15年9月には千倉地区住民の6割にあたる7,646名の署名要望書の提出があった。

**課題**  
 ・大正時代に建設された現在の駅舎は老朽化が著しい。  
 ・現在の駅へ続く道路は駅前にもかかわらず一方通行の箇所がある。また、駅前広場は、無秩序に自動車が往来しており大変危険である。  
 ・駅及び周辺広場に必要案内標識や観光マップが少ない。また、広大な敷地の割りに雑然とした様相を呈しており、活気・にぎわいに欠けている。  
 ・市の目指す「ゆったりすこやか」型観光に対するPR・レンタサイクル等の設備が不足している。  
 ・高家神社周辺をはじめ、観光地へ続く道路は老朽化によりクラック及び破損がかなりすすんでおり大変危険である。  
 ・ウォーキング大会を実施する付近の道路の整備が不十分である。

**将来ビジョン(中長期)**  
 南房総地域における観光の拠点、駅前商店街のにぎわいの再生の中心としての役割  
 ・南房総市総合計画において、千倉駅前広場整備は、交通拠点の機能強化を図る主要な取組みとして位置付けられている。  
 ・南房総市過疎地域自立促進計画において、交通確保対策に関し必要な事項として位置付けられている。

**目標を定量化する指標**

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
①高速バス利用者数	人	千倉駅前バス停からの高速バス年間乗車人数	交通拠点の機能強化を図ることによって、高速バスを利用する人数が増えるかどうかの指標。	6,100	H17	9,100	H22
②事業の(実施)効果に対する住民評価(事前・事後にアンケートを実施)	-	事業の(実施)効果を測るアンケートに対する回答	本事業の事業効果アンケート。回答者がどの程度「実施して良かった」と評価するかの指標。従前値を1とし、事業実施後を1.2と見込む。	1.0	H17	1.2	H22
③公共案内標識の整備率	基	区域内における公共案内標識の基数	住民や観光客にとって、親しみやすく分かりやすい公共案内標識を整備することにより、利便性の向上を図る。	0	H17	12	H22

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・整備方針1(駅舎の整備) 市の玄関を形成するために、駅舎及び周辺道路の整備を行う。駅舎構内には観光案内所や多目的ホールを整備し、観光客の受け入れ態勢を整える。</p>	<p>駅舎・観光案内施設等整備(提案事業)</p>
<p>・整備方針2(交通環境の改善) 市道千倉7号線(市道駅前線)を、ロータリー形式により自動車の動線を明確化する。高速バスの乗降場所を誘致することにより、交通結節点としての機能を強化し、駐輪場やパークアンドライド方式による駐車場を整備する。また、高家神社などの観光地へ続く道路を道路改良することにより、交通の利便性・安全性の向上を図る。</p>	<p>道路整備(基幹事業)</p>
<p>・整備方針3(観光の楽しさの演出) 当市を訪れた観光客に対し、これから始まる観光に対する楽しさ・期待感を演出する情報板の整備。また、市内各地をゆったりと見て回れるレンタサイクルを導入する。</p>	<p>地域生活基盤整備(基幹事業/情報板) くるくる車らん(関連事業)</p>
<p>その他</p>	

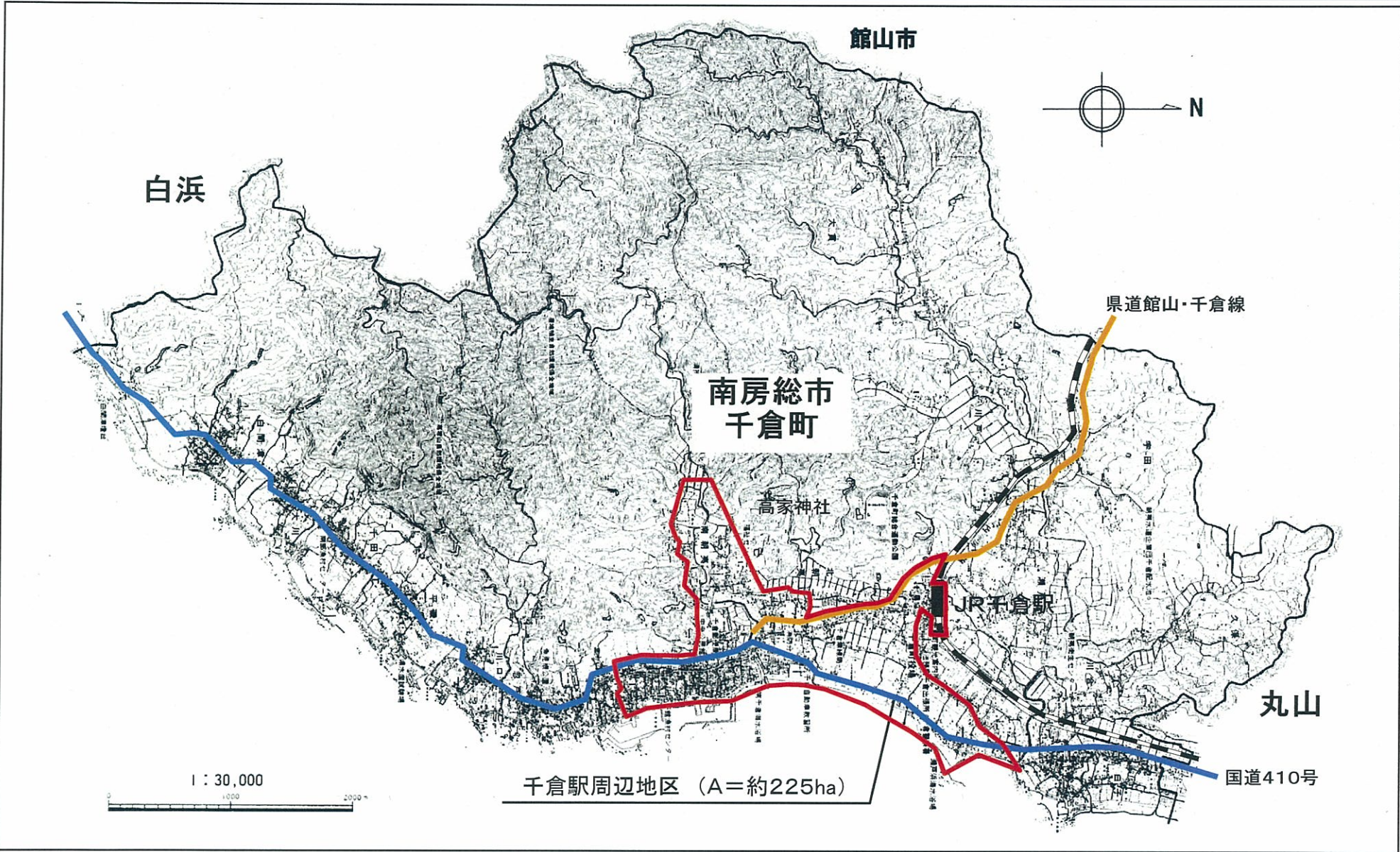






都市再生整備計画の区域

千倉駅周辺地区(千葉県南房総市)	面積 225 ha	区域 千葉県南房総市千倉町瀬戸、北朝夷、南朝夷、平館の一部
------------------	--------------	----------------------------------





## 千倉駅周辺地区(千葉県南房総市) 整備方針概要図

目標	大目標: 駅および周辺広場の環境改善により、住む人や観光客に安らぎをもたらす、鉄道を利用した「ゆったりすこやか」型観光の拠点創出 目標1: 魅力ある駅の整備。 目標2: 駅前道路をロータリー形式に整備することにより、交通の利便性・安全性の向上を図る。 目標3: 親しみやすく分かりやすい公共案内標識の整備。	代表的な指標	高速バス年間乗車人数 (人)	6,100 (H18年度)	→	9,100 (H22年度)
			事業効果に対する住民評価 (—)	1.0 (H18年度)	→	1.2 (H22年度)
			公共案内標識設置数 (基)	0 (H18年度)	→	12 (H22年度)

